

NISSAN VISION

MOBILITY INTELLIGENCE
FOR EVERYDAY LIFE

モビリティの知能化で、毎日を新たな体験に

日産は創業以来、モビリティを通じて人々の生活を豊かにし、社会の発展に貢献することを目指してきました。その想いは、コーポレートパーパス「人々の生活を豊かに」にも込められています。環境・社会課題が地球規模で深刻化する中、サステナビリティはパーパスを実現し、長期的な企業価値を創造していくための基盤と位置付けています。企業を取り巻く環境は急速に変化しており、気候変動やエネルギーの安定利用、交通事故の低減、さらには誰もが安心かつ安全に移動できる社会の実現など、環境・社会課題への対応は一層重要性を増しています。同時に、モビリティに対するお客さまの期待はこれまで以上に高まっており、直感的に使い、実用的かつ日々の暮らしに寄り添うテクノロジーが求められています。

こうした中、日産は2026年4月、「モビリティの知能化で、毎日を新たな体験に」という新たな長期ビジョンを発表し、お客さまを中心に据えた戦略の方向性を明確に決めました。本ビジョンはパーパスを実現するための指針です。本ビジョンのもと、知能化と電動化を進展させることで、さまざまなお客さまのニーズや地域市場に対応していきます。そして、より安全で、直感的に使い、誰もが日常的に使えるモビリティの提供を通じて、お客さまの体験価値向上と社会への価値創造を目指します。

知能化技術は、移動そのものを進化させ、移動時間の価値を高めていきます。日産ならではの高度な車両制御、データやデジタル技術を組み合わせることで、より多くの人々へ安全かつ安心できる移動を提供するとともに、移動における新たな価値を創出していきます。

電動化は引き続き、気候変動に対する重要なアプローチであり、カーボンニュートラル社会の実現に寄与します。各地域の市場やインフラに応じた多様な電動化ソリューションを通じて、環境負荷の低減と持続可能なモビリティの普及を推進していきます。

さらに、電動化と知能化との融合により、クルマはエネルギーとデータのエコシステムの一部となります。これにより、再生可能エネルギーの活用拡大や社会全体のレジリエンス向上に寄与し、人と地域社会の可能性を広げていきます。

これらの活動の成果を測る尺度は、お客さまの体験価値と地域社会に提供する価値です。信頼は計画の中で生まれるものではありません。日産がどれだけ自然に、人々の毎日の暮らしに溶け込んでいるかによって築かれるものです。

当社は、長期ビジョンにて明確な方向性を示していますが、その実現には人財、パートナーとの協業、バリューチェーン全体での責任ある取り組み、そして実効性の高いガバナンスが不可欠です。日産は今後もサステナビリティを経営の基盤と位置づけ、モビリティの革新を進めながら社会課題に取り組み、お客さま、地域社会、将来世代に向けた長期的な価値創出を目指します。

担当役員メッセージ

日産は、「人々の生活を豊かに」というコーポレートパーパスのもと、移動と社会の可能性を広げることを目指してきました。この考えは、「モビリティの知能化で、毎日を新たな体験に」という長期ビジョンにも一貫して受け継がれています。モビリティに対する期待が大きく変化する中、その想いは変わることなく、さらに広がりを見せています。日産は、誰もが使える、知能化されたモビリティの提供にとどまらず、環境や社会への影響にも配慮し、変化にも柔軟に対応できる、持続可能なモビリティの実現に向けて取り組みを進めています。

当社を取り巻く事業環境は急速に変化しており、とりわけ自動車業界は、電動化の進展や車両の知能化、お客さまニーズの変化に加え、地政学的リスクの高まりやサプライチェーンの不安定化、各市場における規制の高度化により、複雑で緊急性の高い構造変化に直面しています。こうした環境では、規律ある事業運営を徹底するだけでなく、迅速に適応し、リスクを適切に管理しながらレジリエンスを高め、長期的な価値を創出していくことが求められます。

サステナビリティは、当社のレジリエンスや競争力、将来の機会に対する考え方を形づくる重要な基盤です。日産は、長期ビジョンを支える「ニッサン・グリーンプログラム2030(NGP2030)」および「ニッサン・ソーシャルプログラム2030(NSP2030)」を通じて、2030年に向けたサステナビリティの優先事項を定義し、具体的な活動を実践しています。

加えて、ステークホルダーからの事業およびその運営の透明性に対する期待の高まりや、複雑化する開示規制への対応力を高めるためには、これまで以上に経営層の関与を深化させ、サステナビリティのガバナンスを強化し、サステナビリティを経営に組み込んでいくことが重要となっています。そのため、2025年度には従来のグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティとグローバル環境委員会を統合し、CEOを議長、経営会議メンバーを構成員とするサステナビリティ委員会を立ち上げました。取締役会による監督のもと、本委員会では気候変動、サーキュラーエコノミー、人権といった重要課題を包括的に審議・マネジメントするとともに、事業活動におけるサステナビリティ関連のリスクの低減と機会創出に注力し、戦略および事業運営への統合を進めています。

当社にとって、2026年度末までに経営再建計画「Re:Nissan」の目標を達成することが当面の最優先事項ですが、それと並行して、長期的なレジリエンスと持続的な価値創出に向けた基盤づくりも着実に進める必要があります。サステナビリティを含む経営戦略を担当するストラテジーアクセラレーションチーフとして、経営戦略とサステナビリティを一体的に推進することで日産の変革を支え、より強靱で持続可能な企業への進化を実現させてまいります。そして、ステークホルダーへの価値創出と社会への貢献を目指していきます。



坂根 学

ストラテジーアクセラレーション チーフ
日産自動車株式会社